

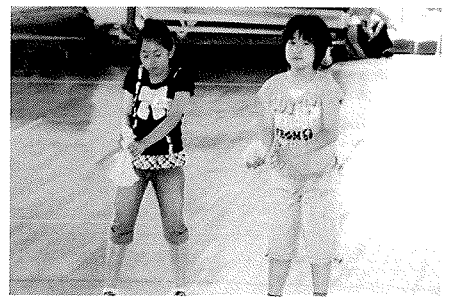
少連協ニュース

発行所 / 足立区少年団体連合協議会
(<http://www.a-shorenkyo.jp>)

発行人 野辺 陽子
編集 調査広報部
大林 市川 小野田 高澤
高橋 手塚 田中
鈴木 川下 堀内



笑顔いっぱいの子どもたち



足立区
少年団体連合協議会会長 野辺 陽子

今こそ、親の手で……

今年の日本の子どもの数は、連続31年間減少しつづけ、一六六五万人だそうだ。総人口に占める子どもの割合も13年間低下しつづけ、世界でも最低水準という。受け入れなくてはならない現実ではあるが、日本の将来はどうなるのだろうか。こんな現状の中での親の考え方を見聞きするにつけ、不安をかきたてられる。

親の身勝手、戸籍に載っていないながらも現実には千人を超える子どもが行方不明になっているという。

また卑近な例では、親が子どもを学校に送り出すことができず、不登校になっているという児童・生徒がいる。登校サボーターが毎朝子どもを迎えに行き登校を促すのだという。

どこか変ではないか。子どもを産んでもその責任を果たせない親のなんと多いことか。

その犠牲になるのはいつも子ども達だ。生きる力を身につけさせるのは小学校の低学年までが勝負である。せめてそれまでくらいは親がしっかりと自分の手で我が子を育てるべきだと思ふ。他人まかせの育児は不幸な子どもを産み出す。

今、子どもにとって何が必要なのか。今一番してあげなければならないことは何なのか。

この今を逃しては、人間としての資質を欠いた人になってしまう。賢明な親にならなければならない。子育てだけは、やり直しがきかない。

少連協新年会開催

総務部長

元井 一壽

一月十三日(金)毎年恒例の少連協新年会が開催されました。

今年は会場が変わりましたが、役員さんや総務部員の手際良い連携で、短時間で会場準備ができました。舞台には、織田総務部員が書いた表題と式次第、舞台脚元にはのちほど使われる花が並び、新年会らしい華やかな雰囲気の皆様をお迎えすることができました。

今年も近藤やよい足立区長をはじめ、子ども達の健全育成に関わ



▲青木教育長による乾杯



▲近藤区長のごあいさつ



▲和やかに進む新年会

るたくさんの方においでいただき、華を添えてくださいました。

今年は、会のはじめに、「安心安全プロジェクト」の一環として寸劇が行われました。

テーマは「いかのおすし」。

いか：いかない

お：おおごえをだす

す：すぐにげる

し：おとなにしらせる

地域の子ども達に周知してもらえよう、派遣システムが紹介さ



▲「青い山脈」の大合唱

れました。

新年会は、野辺会長の挨拶に始まり、近藤区長・くじらい光治文教委員長に来賓祝辞をいただき、青木光夫教育長の乾杯で和やかな会が始まりました。

少連協新年会の特色のひとつとして、毎年ビンゴが行われます。

今年も、会長をはじめ役員の皆様さんより景品が持ち込まれ、大変盛り上がったビンゴ大会になりました。その後、恒例の「青い山脈」を合唱し、羽住体育指導委員会会長の中締め、山本副会長の閉会の辞で、お開きとなりました。

ご来賓の皆様をはじめ、ご参加



くださいました大勢の方々のご協力により盛況におわれました。



異年齢の集団活動を考える

東京都地区子ども会育成研究協議会
少連協副会長 鈴木春男

全国子ども会連合会、東京都子ども会連合会及び立川市子ども会連合会が主催する「東京都地区子ども会育成研究協議会」が平成二十三年十一月十九日(土)立川市市民会館(アミューたちかわ)にて開催されました。

今回の研究テーマは、「子ども会活動の必要性Ⅱ異年齢の仲間集団活動の意味するもの」としています。足立区からは野辺会長を始め、鈴木副会長、大林副会長、市川広報部長、小野田書記の五名が出席いたしました。

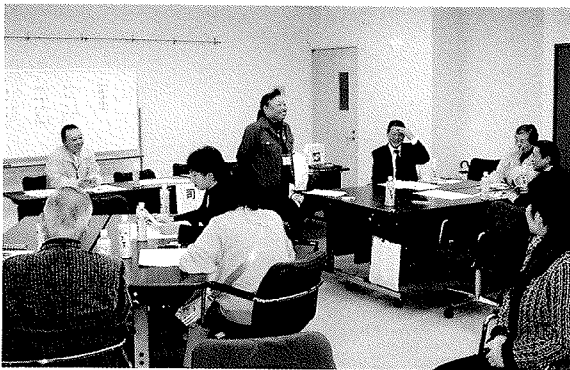
清水庄平立川市長のご挨拶の後、平成二十二年東京都子ども会連合会の表彰式があり、足立区ではジュニアリーダー団体表彰として伊興パワーキッズが、個人表彰指導者育成者では山本輝夫さんが受賞されました。

基調講演は昭和女子大学人間社会学部福祉社会学科高橋久雄教授による「子どもが異年齢の集団活動で学ぶものはなにか?」とのテーマで行われました。講演の内容は育成者・指導者自身が子ども時

代を振り返る時、自分に影響を与えた人達は誰か? 現代社会の子ども達の生活時間と環境は? 子どもの成長・発達と集団の意味・特徴、人生に於ける人間関係の力の幅広い考え方について講演されました。この後、基調講演に基づき部会が行われました。



▲高橋久雄教授の基調講演



▲部会での活発な討議



▲育成研究協議会の出席者

第一部会は「少年リーダー(小学生)研修から、ジュニアリーダー養成につなぐ! そのねらいは何か?」

第二部会は「異年齢の仲間集団活動の意義と重要性」

第三部会は「子ども会活動の充実を図るⅡ自分の地域の未加入の子ども達への呼び掛けをしていますか?」

第四部会は「子ども会ですぐ役立つレク・ゲームを身につけよう!」とのテーマで立川市子ども会連合会が中心となり活発な討議が行われました。

立川市ではNPO法人立川市レクリエーション協会に年少リーダー

東京都子ども会連合会表彰を受賞

去る、十一月十九日に行われた東京都地区子ども会育成研究協議会(立川市)に於いて、第十四地少協の伊興パワーキッズ(写真左)と測江地少協の山本輝夫会長(写真右)が、永年の活動と充実した活動内容が認められNPO法人東京都子ども会連合会より表彰を受けました。



ー・ジュニアリーダーの研修を委託し、市の施設である八ヶ岳山荘で市内の十二の地区の二泊三日のキャンプを行い、この活動を通じて、中・高生リーダーへの継続・育成を図っているとの特徴を生かした発表がありました。

江東五区少年団体

代表者会議

副会長
加藤俊次

十月二十九日(土)午後一時から、江東五区少年団体代表者会議が江戸川区コミュニティプラザ一之江で開かれました。

足立区からは野辺会長、鈴木副会長、加藤副会長、青少年課の伊藤係長、小林氏の五名が出席しました。

江東五区(江戸川区・江東区・墨田区・葛飾区・足立区)の少年団体関係者(約百二十名)が一堂に会して、各区の情報交換及び活動状況・課題について、意見交換をすると共に、今後の活動の向上を目指すことを目的に開催されました。

当番区江戸川区の開会の挨拶に始まり、各分科会に分かれ、討議を行いました。

第一分科会では「連合体の活動のあり方について」、第二分科会では「単位子ども会でのジュニアリーダーの活動」のテーマに従い、事例発表・討議(質疑応答・事例の分析・アイデアの出し合い等)の順で論議を尽くした後、各分科

会のもとめを全体会で発表し、講評をいただきました。

その後懇親会が開かれ、和やかな雰囲気の中で、会議では語ることの出来ない、各区のご苦労や状況を聞きつつ、有意義な懇親の

福島県相馬市の子ども達からのお礼の手紙

昨年三月十一日の東日本大震災は、多くの人々に大きな被害・損害を与えました。

私達少連協も、足立区と災害時相互応援協定を結んでいる福島県相馬市に、心からのお見舞いをお送りいたしました。各地少協からの義援金は六十万円余という大き

時を過ごしました。

今後、この会議で得た情報や論議した課題・アイデアなどは、足立区の子ども会活動の活性化等に役立てると共に、子ども達の健やかな成長に役立ててまいります。

なものとなりました。

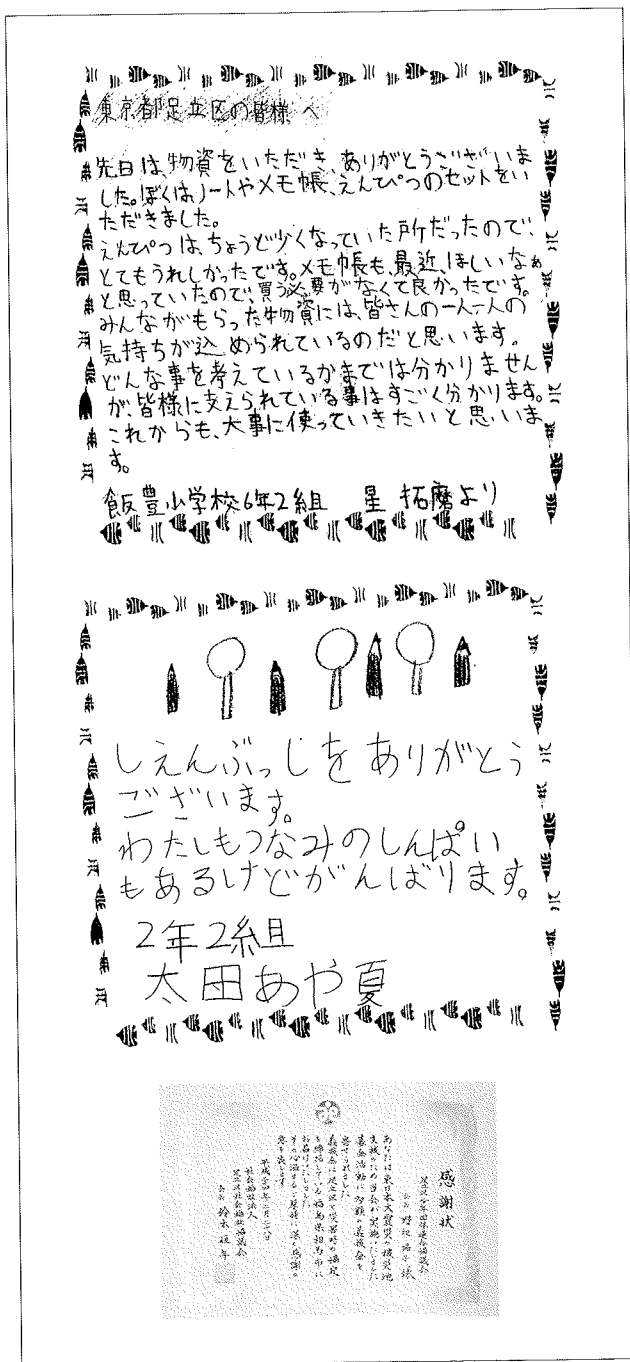
また、各地少協で集めた文房具類を、相馬市全小学校の児童二千五十五人ひとりひとりに、足立区の子ども達からの励ましのメッセージを添えて、贈ることができました。

文房具類を集め、メッセージカ

ードの記入指導、袋詰め作業、リボンかけと多くの育成者の協力をいただきました。ひとりひとりの力が大きなひとつの形になっていくのを目の当たりにし、改めて少連協の底力を感じました。心より感謝を申し上げます。

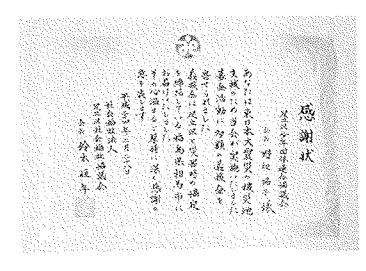
そして、足立区社会福祉協議会の皆様には、配送等に多大なご協力をいただきました。改めて御礼申し上げます。

ここに、各小学校の児童からのお礼の手紙の一部を載せさせていただきます。文章のむこうに、相馬市の子ども達の笑顔が見えてくるような気がいたします。



東京都足立区の皆様へ
先日は物資をいただき、ありがとうございます。い
ました。厚くは、ノートやメモ帳、えんぴつのセットをい
いただきました。
えんぴつは、ちょうと少なくなっていた所だったので、
とてもうれしかったです。メモ帳も、最近ほしいな
らと思っていたので、買った喜びがなくて良かったです。
みんなが、かかち、た中物資には、皆さんの一人一人の
気持ちがかかち、められているのだと思います。
みんなな事を考えているかまでは分かりませんが、
みんなが、皆様に支えられている事は、すごく分かりま
す。これからも、大事に使っていきたく思います。
食反小学校6年2組 星 拓磨より

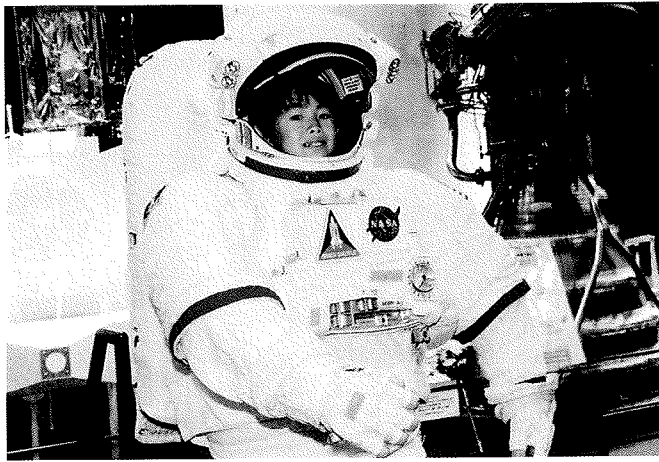
しえんぱんじをありがとう
ございます。
わたしもなみのしんぱい
もあるけどがんばります。
2年2組
太田あや夏



少連協日帰り研修旅行

総務部長 元井一壽

筑波宇宙センターと東日本大震災被災の大洗・那珂湊方面へ



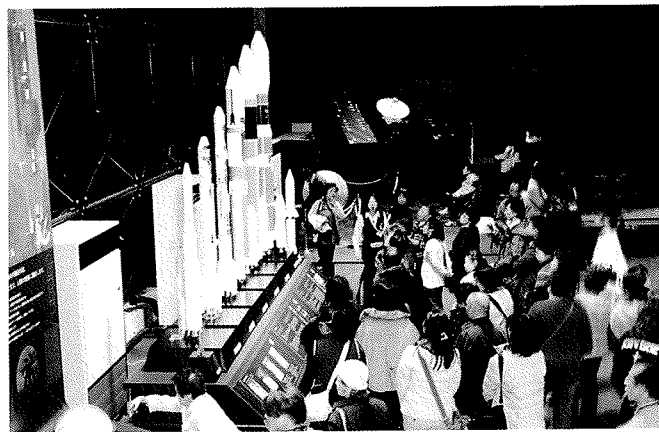
▲宇宙服の試着体験

去る、平成二十三年十二月四日（日）少連協日帰り研修旅行を開催しました。

当日は、野辺会長、青少年課の伊藤係長をはじめ総勢四十七名に参加をしていただきました。

今回の研修先は、筑波宇宙センターを見学し、東日本大震災で被災した、大洗・那珂湊方面に行きました。

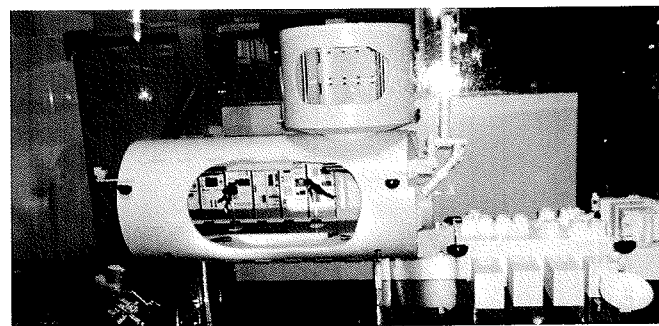
筑波宇宙センターでは、種子島にあるロケット打ち上げ射場から半径三キロ地点でのロケット発射



▲説明に聞き入る参加者

時の音響体験に参加しました。その後、人工衛星の試験モデルの展示や、実際のロケットエンジン、有人宇宙実験室「きぼう」のモデルなど、多数の宇宙に関する機材の見学をしました。

一連の説明の中で印象深かったことは、機械だけを作るのではなく、その物に魂を入れて人間の将来のために働いてもらうということと、職員一同が日々研究をしているとのことでした。



▲有人宇宙実験室「きぼう」のモデル

向かう途中では、地震で瓦屋根が落ちてブルーシートで覆ってある家は何軒もありました。那珂湊では津波の痕跡が生々しく残っていました。

復興支援の一環として、昼食と市場での買い物をしました。店の人に聞くと、やっと活気が戻ってきたそうで、風評を気にせずにごんどん買い物に来てほしいと言っていました。

今回の研修旅行は被災地支援も出来、有意義な一日でした。

青井小学校登下校時の見守り 挨拶の励行と励ましを！

青井地少協会会長

清水康行

青井小学校の朝の見守りは、青井三丁目中央自治会の久保田会長が退職された時に、子どものためにと始められ、地域・PTAを巻き込んで現在にいたっています。

登校時の見守りは、PTAが四カ所、地域が五カ所担当しています。

個々の場所別では学校近くの信号のある横断歩道は先生とPTAの方が担当して、押しボタン信号確認と青信号での横断を励行しています。(1)

青井駅前の横断歩道は地域の方の担当です。青信号での横断を自転車・通勤者にご協力いただいています。(2)

綾瀬新橋西詰はPTAと地域の方の担当です。自動車・自転車・歩行者にご協力いただいています。(3)

兵和通東交差点と西交差点はPTAの方の担当です。子ども達の集団登校に努めています。(4)

青井三丁目第三団地四号棟と青

和バラ公園北・南は地域の方の担当です。青井保育園への通園・通勤・通学者にも声かけをしています。(6)(7)(8)

朝の見守りはPTAが七時五十分から八時十五分、地域が七時四十五分から八時三十分まで行っています。

地域の見守りは時々ですが、見守り後は皆さんで情報交換を行います。

・インフルエンザで学級閉鎖になった。

・大人が児童の前で信号無視した。

・自転車が交差点を斜め横断した。

・今日は、○年生は校外授業。全員登校した。

・今日は○君と○さんが来ていないが…。

・こちらから登校したよ。

・というように話しあいをします。

朝の見守りは、青井小をはじめ、近隣の小・中・高校・幼稚園・保育園も含まれます。

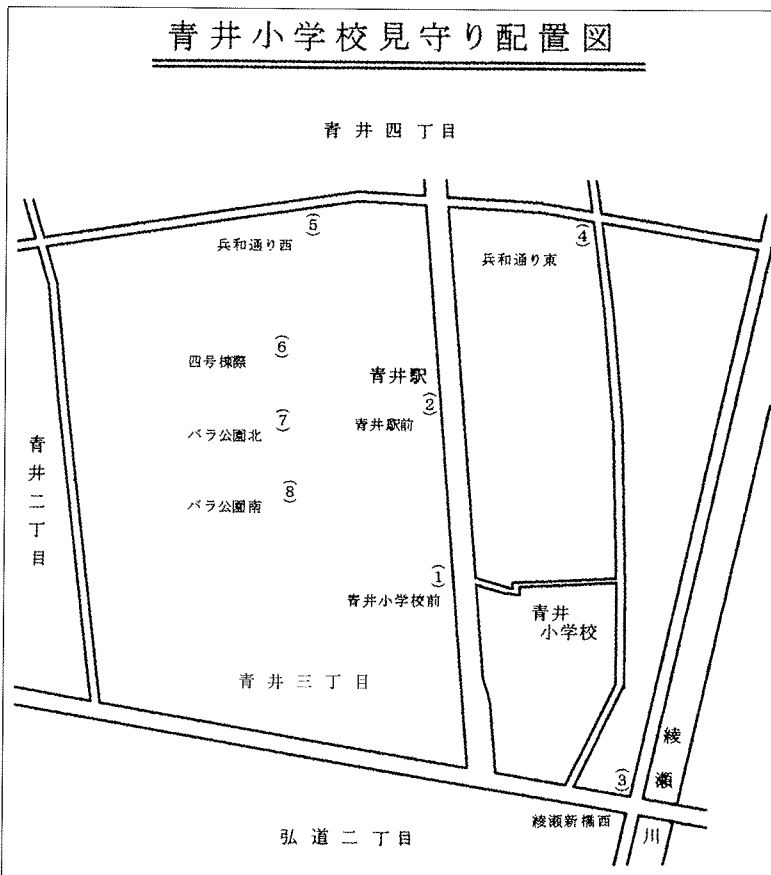
下校時の見守りは、当初週に一回でしたが、現在は火曜・木曜・金曜の三回行われています。

見守り場所は学校近くの信号のある横断歩道と青井駅前横断歩道の二カ所で別途パトロール隊を組織し、下校児童の見守りを実施しています。

通学区域の狭い青井小学校ですが、一人の努力から共感を生み、大勢の仲間へと広がりました。

児童たちの元気を挨拶、ご苦労さまですと見守り隊を応援くださる地域の皆様とともに大きな輪を發展させたいと思っています。

青井小学校見守り配置図



善行青少年顕彰を受賞して

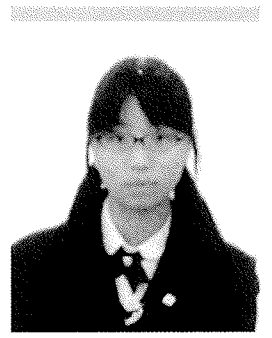
飯沼さんと落合さんは、足立区の青少年課事業「ジュニアリーダー研修」の講師助手として、子ども達の指導を手伝いました。研修中は、講師の指示に対して的確に行動し、子ども達には先輩として優しく、時には厳しく指導にあたっていたと、講師をはじめ地域の育成者からお褒めの言葉が教育委員会に多く寄せられました。

また、中学生を対象とした「ジュニアリーダースーパー研修」や他の青少年課事業にも積極的に参加し、事業運営に寄与してきました。今後もリーダーとして更なるスキルアップに努め、地域の子ども会活動への積極的な参加を通じて大いに活躍してくれることを期待し、ここに顕彰します。

☆受賞者のコメント

飯沼遥さん（青少対中川地区）

この度は善行青少年として顕彰していただき、ありがとうございます。ずっと続けてきたジュニアリーダーの活動で受賞できたことがとても嬉しいです。小学生を指導する立場は初めてのことで、う



▲飯沼 遥さん

まくいかなかったことも多かったです。しかし、講師の先生や地域の方々、元気な小学生の笑顔でも楽しく活動できました。

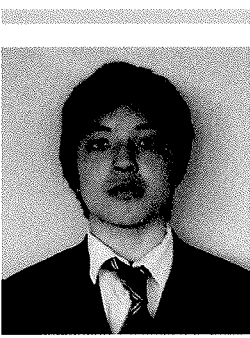
今後とも、たくさん的小学生に参加してもらい、ジュニアリーダーを通じて地域の絆をもっと深めていけるよう、お手伝いしていきたいです。

落合恭平さん（青少対中央地区）

顕彰していただき、どうもありがとうございます。

私は、小学生や中学生の世話をするのが好きで、足立区のジュニアリーダー研修会などに参加して、講師の方のお手伝いをしてきました。

いろいろと大変なこともありま



▲落合恭平さん

すが、とても楽しい活動です。

ぜひ、地域の小・中学生が、もっと多く参加してくれることを願っています。自分がこれまで一生懸命取り組んできたことが、皆さんに認めてもらえて、とても嬉しく光栄に感じています。

この顕彰を励みにして、これからもジュニアリーダーの指導をがんばっていききたいと思います。

アイススケートの会 百二名の参加者

第三地少協副会長 中林昭一

平成二十四年二月十一日（土）第五十七回アイススケートの会を開催しました。江戸川スポーツランドに集合した七つの子ども会か



らの参加者は、百二名でした。内訳は、中学生四名・小学生五十九名・幼児三名・付添の大人三十六名でアイススケートを楽しみました。

初めてスケート靴をはいた子どもは、最初はぎこちなく、手すりを持ちながら、リンクのまわりを滑っていました。時間が経つにつれ、次第に中の方で滑りはじめるほどに上達して、帰る頃には、リンクから出たがらない子どもたちがいきました。

帰る時間は各こども会ごとにまちまちですが、集合時間どおりに集めるのがひと苦労のようでした。来年度も子どもたちが楽しめる行事を企画したいと思います。

■少連協主催 第四回ドッチビー大会

事業研修部長 清水康弘

平成二十四年二月十一日(土)

梅田体育館で第四回ドッチビー大会が行われました。昨年までは一日を通して、二面しかとれないコートで十数チームが試合を行っていました。そのため、次の試合までの待機時間が長かったり、体育館内は、ギャラリィが収まりきれず、館内の別の施設にあふれてしまふなど課題がありました。

しかし今年は、午前と午後の二部に分け、大会を行いました。

午前、午後とも八チームのエントリーがあり、一ブロック四チームの総当たり戦で盛り上がりました。

午前中の大会には、青木光夫教育長が来賓としてお見えになり、ドッチビーの試合にも参加してくださいました。

体育指導委員会の皆様には、審判を中心にご協力いただきました。

来年度は、会場を竹の塚スイムスポーツセンターの体育館で開催を予定しています。さらに多くの地少協の参加をお待ちしています。



十名以上の団体は申請があれば体育指導委員会より、指導委員が派遣されるということです。

■「がんばる地少協」助成事業 ドッチビー大会

第四地少協 手塚 裕

平成二十三年十一月三日(金) 足立区立弥生小学校にて、「がんばる地少協」助成事業として、第四地少協主催の第二回ドッチビー大会が開催されました。

各町会対抗で、小学校一年生から六年生まで七十八名の子ども達が、九チームに分かれて参加しました。

第四地少協では今までこの時期

に、ドッチボール大会を開催していましたが、低学年の子ども達にはボールが大きすぎ、うまく投げられないばかりか、キャッチも出ず、当てられると泣いてしまう子どもも大勢いました。

足立区少年団体連合協議会では以前からドッチビーの普及を推進していることを知り、当地少協では平成二十二年からドッチビーに切り替えました。

ルールはドッチボールに似ていますが、子ども達もすぐに理解し、白熱した試合が繰り広げられました。「当たっても痛くない」ということが、子どもの恐怖心を取り去るようで、小さな子ども達



にピッタリのスポーツだと思えます。

来年度も、大勢の子ども達が参加できるように努めていきます。

編集後記

最近、登校時に悲惨な交通事故が発生し、児童の死傷という痛ましい報道がなされています。

今回、登下校の見守りを掲載しました。

各所で同様なことを実施していると思いますが、子ども達の安全を配慮して、交通事故防止に努めていただきたいと思います。

(市川元二)